

小金井小学校の教育研究と実践

小金井小学校では、以下の教育研究・実践を中核として推進しています。これらは本校の特色であり強みであると同時に、附属学校としての使命でもあります。

日々の実践と研究を通して成果を積み重ね、その成果を広く社会に発信しながら、先駆的な教育モデルの創造に取り組んでいます。これにより、日本の学校教育の充実と発展に貢献しています。

1. 教育実習・教員養成および授業公開

本校は、教員養成の中核を担う東京学芸大学の附属学校です。大学キャンパス内に所在する特性を生かし、毎年約170名の教育実習生を受け入れ、実践的な指導を行っています。また、大学・大学院と連携し、授業参観や授業研究の機会を提供しています。

令和7年度は、計34回の授業公開を実施し、1,068名の学生が参加しました（1月末現在）。さらに、学校インターンシップや授業ボランティア、学校支援員等として多くの学生が児童と直接関わり、初等教育についての理解を深めています。

大学構内に所在する利点を生かし、大学教員、教育委員会関係者、他校教員、海外からの教育使節団など、多くの来訪者を受け入れています。本校は、伝統と先進性を併せ持つ日本型小学校教育の実践校として、学校視察の場としても高く評価されています。



2. 教育研究の実験・実証と成果発信

児童一人一人が主体的に考え、対話を通して学び合う授業の創造を目指し、継続的に授業研究に取り組んでいます。その成果は、3年に1度開催する「研究発表会」および「研究セミナー」において公開しています。加えて、年間7回の校内授業研究会を公開し、教育研究の深化を図っています。

令和7年度の研究発表会には、対面829名、オンライン350名、計1,179名が参加しました。活発な教育活動と研究成果を広く共有し、高い評価を得ています。

また、教員は毎年『研究紀要』に研究成果を発表しています。研究発表会実施年度には成果を書籍として刊行しており、令和7年度には『子供が学びを創る：教科の本質を味わう子供たち』を出版しました。こうした取り組みを通して、現代社会の要請を踏まえた授業づくりの在り方を発信しています。

〈これまでの研究テーマ〉

「発展学習」(昭和40～48) 「豊かな人間を育てる教育課程」(昭和49～57)

「自ら学ぶ力が育つ学習」(昭和 58～61) 「感じ動き高める子」(昭和 62～平成 7)
「ともに生きる子どもが育つ学校」(平成 8～12)
「学ぶ喜びを味わい、学びを生かす子の育成」(平成 13～15)
「実感と創造のある学びをはぐくむー子どもの論理をひろげる授業ー」(平成 16～18)
「求めあい、つなげあう子～『受容』から広がる学びの姿～」(平成 19～20)
「求めあい、つなげ合い、学び合う子」(平成 21～22)
「深く考える子ー子供の考えが深まる授業づくりー」(平成 23)
「理解を深め、物語れる力をはぐくむー実感のある学びを生み出す学習環境デザイン」(平成 24～25)
「理解を深め、知を創造する子の育成ー子どもの思考を媒介する『メディア』に着目してー」(平成 26～28)
「『こえる学び』を生む学習環境デザインの追究」(平成 29～令和 1)
「『こえる学び』の拡張」(令和 2～4)
「学びを創る」(令和 5～7)



3. 「生きる力」「非認知的能力」を育む宿泊体験活動

本校の大きな特色の一つが、豊かな自然環境の中での長期宿泊体験活動です。長野県茅野市で実施する一宇荘生活（林間学校）と、千葉県鶴原で実施する至楽荘生活（臨海学校）を柱とし、3年生から卒業までに計 21 泊 27 日の活動を行います。

これらの活動は戦前から約 80 年にわたり継承されてきた伝統的教育活動です。自然の中で仲間と協働しながら生活する体験を通して、自己と共同体への理解を深め、知・徳・体・情を統合した全人的な力、すなわち人生を切り開く「生きる力」を育成しています。

また、自然体験活動は、生涯にわたり豊かな人生を形成するために重要とされる「非認知的能力（性格スキル）」の育成にも寄与することが実証されています。本校の教育目標である「明るく思いやりのある子」「強くたくましい子」の育成は、これらの体験活動を通して具体化されています。



4. ICT を活用した教育・学校運営・研究

社会の変化を見据え、本校ではICT（情報通信技術）を積極的に活用した教育実践および学校運営の改善に取り組んでいます。オンライン授業の実施に加え、事務業務の効率化やペーパーレス化を推進し、職員会議はMicrosoft Teams を活用して実施しています。

研究面では、2020 年度より「ICT 部会」を設置し、「ICT×インクルーシブ教育」をテーマに実践研究を行っています。文部科学省の研究指定校として、学びに困難を抱える児童への支援の充実を図るとともに、それがすべての児童にとって有益となる教育環境の構築を目指しています。

今後も ICT を効果的に活用し、教育の質向上と教職員の働き方改革を両立させる先端的な取り組みを推進していきます。

